

科目名	音声障害						授業の種類	演習	必修・選択		必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年	前期	
【授業の目的・ねらい】 音声障害の種類と内容、検査法、および治療・訓練の理念とその方法を学ぶ。											
【実務者経験】 姫路聖マリア病院等にて、言語聴覚士として音声障害分野リハビリの従事経験。											
【授業全体の内容の概要】 音声障害の原因疾患と発生メカニズム、治療や訓練の基本的な技法について理解できる。 臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。											
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 音声障害への深い理解と科学的な臨床態度と臨床技能を修得する。											
回数	講義内容										準備物(教材)
1	音声障害イントロダクション 音声障害の概要を理解できる。										STテキスト
2	頭部解剖について理解できる。										STテキスト
3	喉頭の軟骨について理解できる。										STテキスト
4	頭部の筋について理解できる。										STテキスト
5	咽喉頭腔の解剖について理解できる。										STテキスト
6	喉頭の機能について理解できる。										STテキスト
7	発声と声帯振動について理解できる。										STテキスト
8	弦楽器の共鳴と発声の仕組みについて理解できる。										STテキスト
9	管楽器の共鳴と発声の仕組み（フォルマント、母音）について理解できる。										STテキスト
10	歌唱と歌声（腹式呼吸、共鳴、声区、音質のコントロール）について理解できる。										STテキスト
11	音声障害の検査法（喉頭ファイバースコープ、喉頭鏡）について理解できる。										STテキスト
12	音声障害の検査法（GRBAS、音響分析）について理解できる。										STテキスト
13	機能性音声障害総論（定義、分類）について理解できる。										STテキスト
14	機能性音声障害総論（喉頭所見）について理解できる。										STテキスト
15	音声治療法について理解できる。										STテキスト
定期筆記試験											
【使用教科書・教材・参考書】 『言語聴覚士テキスト』第3版 医歯薬出版											
【準備学習・時間外学習】 普段から復習を行っておく必要があります。											
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。											